

京師本杉原本、鎌倉本、半井本並云略註為朝大島二月日ヲ送り略中此島ハ為朝ガ帝王ヨリ賜タル所領也トテ、三宅島、八丈島、ミツケノ島、オキノ島ナド云鎌倉本、半井本云、大島ヲ始トシテ、ミヤ作沖小島、不載三倉島、而云凡七島、島共ヲ從ヘテケリ、

〔伊豆海島風土記〕大島は、伊豆國加茂郡下田湊より卯辰の間に當り、海上隔たる事十八里、同國河南へは七里程、江戸よりは未午の間にあたりて、海上四十六里餘あれども、つねに島船行かよひ交易の事安し、島の地程は、東西二里半、南北へは五里餘またがり、高山もあれども、なべて岨しからず、濱邊はたへず浪の打洗ふゆへ、巖石顯れ出て、あら磯多し、さて此島人の住始ける年曆流人配所と成し始不詳、

〔伊豆七島調書〕伊豆國附大島東四二里半程、北五里程、南五里程、江戶より海上三十六里程

一家數四百七拾軒、人數男八百九十二人、女九百二十七人外に流人男七人、馬百疋、

三原大明神 神主藤井内藏助 寺三ヶ寺豆州下田海善寺、末禪宗金光寺、同下田本覺寺、末法花宗海中寺

一此島御貢金四拾壹兩、永二百拾七文宛、年々定納仕候

一爲御救米、一ヶ年二拾石五斗八升三合宛、被下置候、

一御圍米無御座候

一此島田方無之畑、方有之麥、粟、稗、芋を作り、夫を食に仕候、

一此島には稼は男は薪を伐、筥を織、江戸へ積出し、漁事多き節は鯨鯨を取、干物鯨節にいたし、江戸へ積出し、渡世仕候、

一女は冬より春迄海苔を取、又漁事手傳いたし、渡世仕候、

一流人渡世之儀は、親類より見繼無之者は、百姓之手傳致、渡世仕候、中略

寶曆三年酉十二月